

平成23年度第1回京都市政策評価委員会 摘録

日 時：平成23年12月9日（金）13時30分～15時30分

場 所：職員会館かもがわ 第5会議室

出席者：京都市政策評価委員会委員

大島委員，風間委員，河村委員，窪田委員，越村委員，福西委員，
横井委員

事務局

西村総合企画局長，西野京都創生推進部長，西窪政策企画課長，
田近企画第二係長，長谷川主任

1 開会

2 議事

- (1) 正副委員長の選任
- (2) 平成23年度のスケジュール
- (3) 平成23年度政策評価の取組状況及び政策評価結果
- (4) 市民意見の受付状況

事務局

議題(1)「正副委員長の選任」について，京都市政策評価委員会設置要綱第5条第2項において，「委員長は委員の互選により定め，副委員長は委員長が指名する」こととなっている。どなたか，御推薦はないか。

横井委員

委員長には，政策評価と関連が深い統計学を研究分野とされ，これまで副委員長を務めていただいた河村委員を御推薦する。

事務局

他に御推薦はないか。

委員一同

(なし)

事務局

それでは、委員長を河村委員にお願いするということで、よろしいか。

委員一同

(異議なし)

事務局

御異議がないようなので、河村委員に委員長をお願いする。

続いて、副委員長について、委員長が指名することとなっており、河村委員に指名をお願いしたい。

河村委員

副委員長は、政策評価に関して専門的な知識をお持ちの窪田委員をお願いしたい。

事務局

ただいまの河村委員長の指名により、窪田委員に副委員長をお引き受けいただきたいが、よろしいか。

窪田委員

(了承)

事務局

それでは、河村委員長に御挨拶をいただき、以降の司会をお願いしたい。

河村委員長

(委員長就任の挨拶)

それでは、議題(2)「平成23年度のスケジュール」について、事務局から説明をお願いする。

事務局

資料1(平成23年度政策評価実施スケジュール)により説明。

河村委員長

報告内容について、御意見や御質問はないか。

大島委員

政策評価結果の分析などを大学と連携して実施する方向であったと思うが、スケ

ジュールには含まれないのか。

事務局

評価結果の活用は、後ほど説明させていただく「未来の京都創造研究事業」において実施する予定であり、政策評価のスケジュールには含まれない。

河村委員長

それでは、議題(3)「平成23年度政策評価の取組状況及び政策評価結果」について、事務局から説明をお願いします。

事務局

資料2（平成23年度政策評価の取組状況及び平成23年度政策評価結果）により説明。

河村委員長

今年度から新しい基本計画「はばたけ未来へ！京プラン」に対応した評価となったが、報告内容について、御意見や御質問はないか。

窪田副委員長

市民生活実感調査について、平成20年度からの3年間で回収率が少しずつ下降している。今年度に「京プラン」に合わせて設問を一新し、設問数が増えることとなったが、回収率の下降との関連はあるのか。

事務局

最近の3年間では回収率は下降しているが、それ以前から比較すると、40%前後で推移しており、今年度の回収率が特に低いとは考えていない。設問数が99問から130問に増えたため、回答者の負担は増加したと考えられる。その分、設問が分かりやすい文章となるよう心掛けた。

窪田副委員長

回答の負担が増えたことで、アンケートの後半に空欄が目立つなどの傾向はあるか。

事務局

後半に空欄が多いということはないが、関心がない分野は空欄になっていると考えられる。

福西委員

設問が多いと、おざなりな回答になるのではないか。回答者1人当たりの負担を減らすため、設問を3つに分ける（現在は、130問を65問ずつ2つに分けてアンケートを実施）など工夫をすべきではないか。

窪田委員

回答者の負担を軽減することが重要である一方で、一人の方に市政全般について回答してもらうことも重要である。なるべく設問は分割しない方が良いと考えている。

大島委員

回答者の半数近くが、アンケートの自由記述欄に意見を書いている。非常に高い割合であり、市政に意見があることの現れであると思う。

風間委員

設問は、「京プラン」の「みんなで目指す10年後の姿」に対応させているとの説明であったが、現在a評価のものは、すでに「10年後の姿」が達成できているということか。また、そのような設問とした経過を教えてほしい。

事務局

「みんなで目指す10年後の姿」は、今後達成していくものであり、アンケートは現状でどの程度実現できているかを測っている。施策が進めば、今後評価が上がっていく。

昨年度までのアンケートは、以前の基本計画の施策1つにつき1つの設問が対応していた。「京プラン」の「みんなで目指す10年後の姿」は、市民の意見を取り入れ策定したものであり、今年度からのアンケートの設問にふさわしいということになった。

窪田副委員長

a評価になっているものについては、10年後まで評価を保つことが重要である。全体でa評価が増えていくことが望ましい。

福西委員

観光や国際の分野では、京都以外の人や外国人がどう思っているかが重要なのではないか。言い出したらきりが無いことであるが、市民の意見のみで自己満足にな

ってしまわないよう、常に意識しておくことが大切である。

窪田副委員長

政策評価の結果のみで、政策を決定できるわけではない。政策評価は実施していない自治体が多く、実施していても行政による業績評価だけのところが多い。そこに市民の視点を加えて、客観指標と市民生活実感の2点で評価することに、京都市の制度の特色がある。

大島委員

新しい基本計画にシフトするに当たり、経年変化をとる重要性を踏まえて、可能な限り関連性を持たせるべく努力をして、新しい評価項目やアンケートの設問などを設定していたと思う。

これまでのアンケートの設問と、7～8割が継続しているのではないか。継続しているものは、経年変化を把握すべきである。

事務局

政策重要度は比較可能だが、設問については新たに作成しており、経年変化を把握することは難しい。

風間委員

今後10年間は同じ設問か。

事務局

そのつもりである。

河村委員長

これまでのアンケート結果の蓄積を活かせないか、かなり議論した。しかし、新しいアンケート結果が2年、3年と蓄積したときに、それと過去のアンケート結果との比較はできないこと等から、刷新するならこの時期しかないと考えた。設問の微修正はあるかもしれないが、今後、結果を蓄積していけばよいのではないか。

大島委員

以前の政策評価では、政策評価の中に行政経営に関する内容が含まれていたが、今回は基本計画の構成が変わったことから含まれていない。

「京プラン」の「行政経営の大綱」に含まれる取組については、政策評価の対象となっていないのか。

事務局

「京プラン」では、以前の基本計画と異なり、市民参加・財政・情報公開など行政のマネジメント部分は「行政経営の大綱」として政策分野からは切り離れた。その結果として、政策評価の対象ではなくなったが、各分野で進捗管理等は行っている。

河村委員長

「行政経営の大綱」について、別途評価をすべきか、政策評価の対象とすべきか、重要な問題である。

福西委員

今年度から評価対象を変更したばかりで、ころころ変えるべきではない。

大島委員

事務事業評価との連携は進んだのか。

事務局

施策評価票に掲載する事務事業評価の結果について、同年度の情報になるよう改善した。

河村委員長

ホームページも改善されたようである。

窪田副委員長

事務事業評価委員会について、今年度から新しい取組をされたようである。

事務局

通常の委員に市民等を加えたメンバーにより、対象事業を選定し、事業仕分けのようなことを行った。

越村委員

若者会議で、「京プラン」の策定に携わってきた。いろいろな面で、「京プラン」が進められていることを実感している。

アンケートの結果について、もっと活用すべきである。自由記述についても、どのような意見があったのか知りたい。評価票を見たときに、アンケート結果と客観

指標がどのように合わさったのか、分かりにくい。

風間委員

アンケート結果の実数が、一覧で把握できる方がよい。

福西委員

政策・施策の評価結果一覧（参考資料4）を見たところ、施策ではC評価が多いのに、政策がB評価となっている場合などがある。

河村委員長

政策・施策の評価のつながりが見えない。今年度から政策と施策の客観指標を別に設定したとは言え、政策の下に施策があるのに、つながっていない。

事務局

市会でも同じ質問を頂いたところである。昨年度までは、施策指標を束ねたものが政策指標であった。今年度からは、政策と施策でレベルの異なる別の指標を設定することとした。良い指標が設定できているか、意見を頂きたい。

大島委員

政策、施策それぞれの評価では、理屈は通っている。

事務局

アンケートは、政策も施策も同じ設問を使っているので、結果につながりがある。客観指標はそうではない。

風間委員

ロジックモデルが成り立っていない例もあるのではないかと。

窪田副委員長

ロジックモデルを成り立たせるのは難しい。政策の達成状況は、簡単に測れるものではないため、指標を設定するのが難しい。政策・施策のそれぞれの指標で評価しているのだから、評価結果が連動しないのは当然である。

河村委員長

政策・施策の評価結果の一覧の見せ方を工夫してはどうか。（参考資料4では、）施策評価結果の積み上げが、政策評価結果であるように見える。また、今後、政策

指標の充実を図ることが重要である。

風間委員

そもそも政策レベルに指標を設定する意味を確認しておきたい。政策レベルに設定された指標を独立して評価するのでは、政策の体系づけにつながらない。政策の評価と施策の評価に整合性がとれていないことを捉えて、政策と施策の関係を整理するきっかけにするべきである。

窪田副委員長

政策評価の出発点を再確認しておきたい。政策評価は、政策の進捗状況を把握し、フィードバックするためのものである。ここに、京都市では市民の満足度を加えている。政策・施策のレベルに応じた指標を設定することが理想であるが、指標の設定には限界がある。無理に整合させるより、活用する際に工夫すべきではないか。

河村委員長

政策・施策の指標の結果にずれが生じた場合、より適切な指標を設定するよう努力するとともに、なぜずれが生じているかを考えることが必要である。

窪田副委員長

政策重要度はどのように活用しているか。

事務局

政策重要度と市民生活実感とのマトリックス（参考資料3）で、政策重要度と個別の設問の結果との相関関係が分かる。この結果だけで、市政の重点分野を決定する訳ではないが、各局で事業の企画立案や予算編成等の参考としている。

窪田副委員長

重要度が低い政策分野については、広報する余地もあるのではないか。

事務局

政策重要度は、政策評価の一部ではないが、行政としては絶対に欲しい情報なので、市民生活実感調査の設問と併せて聞き始めたものである。政策評価の結果は、政策企画室のみが活用するのではない。市役所全体、市民、市議員が活用するものであると考えている。

横井委員

アンケートは、年代・性別など統計的にバランスが取れている。政策重要度については、「5つ選ぶ」という条件の下での結果ということを考慮すべきである。

河村委員長

多くの意見が出たが、政策・施策の評価結果のつながりと「行政経営の大綱」の評価については、引き続き検討していくこととする。

それでは、議題(4)「市民意見の受付状況について」について、事務局から説明をお願いする。

事務局

資料3（市民意見の受付状況）により説明。

河村委員長

報告内容について、御意見や御質問はないか。

横井委員

専門的な質問が多い。

福西委員

すべてホームページを通しての質問か。

事務局

ホームページからも意見申出が可能だが、今回の11件は電話で受け付けたものである。

河村委員長

意見は11件だが、申出の人数は何人か。

事務局

3人である。

窪田副委員長

市民からの意見は、政策評価制度の質を高める貴重なものである。市民が評価結果を見たとき、どのような手段で市に意見を言えばよいのか、意見申出制度をもっと広報していく必要がある。

(意見2について)

大島委員

インターネットによるアンケートの導入に当たっては、この委員会でもかつて議論をしたことがある。回答の信頼性を維持するに当たって技術的に課題があることを説明してはどうか。

(意見3について)

河村委員長

住民票を京都市に置いていない学生は、アンケートの対象外となっても仕方ないのではないか。

横井委員

しかし、もっと学生に回答してもらう工夫が必要である。

(意見5について)

窪田副委員長

具体的に指摘してもらえたら、改善につながっていく意見である。

(意見6について)

窪田副委員長

評価結果の活用について、市長や市議員も見ていることは、伝えてはどうか。

大島委員

大学と連携した評価結果の分析のことも回答してはどうか。

(意見7について)

大島委員

お金を払ってでも第三者評価が必要な時代である。経費がかかっても、必要なことは実施すべきであり、そのことはきちんと主張すべきである。

窪田副委員長

この意見は、政策評価の結果、政策や施策を廃止したなど、分かりやすい効果を求めているのではないか。

事務局

この場で頂いた意見を踏まえて、回答案を修正する。

窪田副委員長

修正後の確認は、河村委員長に一任したい。

委員一同

(了承)

河村委員長

それでは、議題はすべて終了したが、事務局から何か報告はあるか。

事務局

会議の冒頭でも触れた、政策評価結果の活用についてであるが、「未来の京都創造研究事業」において研究テーマの選定に活用したり、職員向けの研修で紹介することを検討している。

評価結果の分析については、政策評価の事業として毎年実施するのではなく、当面は大学コンソーシアムの研究者と協力して実施していく。

大島委員

適切な客観指標についても、検討していただきたいはどうか。

河村委員長

それでは、ここで司会進行を事務局にお返りする。

事務局

河村委員長及び委員の皆様から、本日も貴重な御意見、御提案を多数頂いた。

次回の委員会の開催時期は、来年2月から3月上旬頃を予定しており、後日、改めて日程調整をさせていただく。

本日の議論以外でも御意見、御質問等があれば、随時事務局まで連絡していただきたい。

それでは、これで閉会とする。

3 閉会